

ML#0006



MonnaLisa#006

【MOD】PRESENTS

2007.SPRING

【QUIZ MAGIC ACADEMY】

SHALON

for adult only



ML#006

MonnaLisa#006

【MOD】 PRESENTS

2007.SPRING

『QUIZ MAGIC ACADEMY』

SHALON

for adult only

1: シーク・ツンデレ!! (挨拶)

どうもこんにちは、ツンデレ芸人の秋芳涼太郎です。
当サークル4冊目になる『QMA』シャロン本をお届けします。
正直、元々この『QMA』本はごく軽い気持ちで描き始めたジャンル
だったので、自分でもすでに4冊目である事実にビックリですw
自分がオフセットでちゃんと4冊も出したジャンルというと、過去に
『Canvas』シリーズの本ぐらいいしか記憶にないのですが、あれとて
ゲームが発売された当時に2冊出し、その後何年かしてツンデレ本を
作ろうと思い立ったときに桜塚恋本を発行して(それがML#001と
#003なのですが)、それで通算4冊という感じなので、実質
立て続けに描いたのはこれが初めてです。
まあしかし、気楽にはじめたものほど長続きするというのは、案外
世の中そんなものなのかもしれません。

2: えーところでそれはそれとしまして、今回は非常に内容の薄い本に
なっております(汗

隣のページが目に入ってらっしゃるならお気づきかもしれませんが、
ぶっちゃけ今回エロしかありません!! わーわー。
ゆ、許してくれ……冬コミからこっち側、あんまり時間がなかったん
じゃあああ!! 決してルイズ大好きの僕が声が釘様のツンデレだって
繋がりで今更のようにシャナの原作とか読んで正月過ごしたからって
わけじゃないぞ!! うるさいうるさいうるさい!!
オレが生命活動を維持するにはツンデレとひんぬーと黒ニーソが必要
だって何度言わせてらわかるんだ!!
なんだよシャロンもルイズもシャナも全部必要構成要件満たしてるん
じゃねーかよ!! 陰謀か!! (; ° ω °) くわっ
……ごめんねどこまでもダメ人間で……

3: ま、そんなわけで今×切当日の朝です。無駄にテンション高いわり
にグダグダ感が否めない風味ですが、今回の本もちょっとでもお気
に召して頂ければ幸いです。

また、最後になりましたが、今回も仕上げ作業では絵描き友達の
亀のひとくんにメチャお世話になりました。この場を借りてお礼を。
ありがとう~!!



シヤロン
好きです……

……あっ

む胸
やめ……っ



……可愛いのに……
——どうして……



ん……っ！

う……嘘私の
む胸ちっちゃい
もの——

嘘じゃない
……僕は好きです
シヤロンの全部

ギョッ……





ふあああ……っ!!

——シヤロン
僕だけの可愛い
シヤロン……



カカイル
う……ッ



ああッ

クキキ



あッ!
や……





あっ

シャロンー
好きです…
離したくない

あっ

わっ
わたっし
も…



す
好きっ
カイル好き

あ
ああッ
だ大好き…!!



シャロン
僕の…僕だけの
シャロンー!

あ
ああッ
カカイルう
んうっ!!



くああっ



あああッ
くるる なんか
来ちゃうッ



あ…す
好きい…



カカイルラ
せっせつない
のおッ!



大好き…!!



あ…んッ
カカイルラ…!!



シヤロンー
可愛いシヤロン
好きです ずっと
…君が想うよりも!



ふああああ
あ——ツ!!!

あ：カイル
すこく——
しあわせ：

突発企画ページ

MOD版「QMA」シャロン×カイル本シリーズ考察

この本でシリーズ通算4冊目を迎えた当サークルの『QMA』シャロン（×カイル）本。今回は特別企画として、過去のシーンを振り返りながら、ここまでのシャロンとカイルの関係や、2人の内面的な設定を掘り下げて考察してみようと思います。思いつきで突っ走るサークル、それがMOD。い、いや、いずれは何処かで書こうと思っていたんデスヨ？ これは本当w
まあ、そんなこんなですがお付き合い頂けますと幸いです～

□ シャロン □ ～ポジティブ妄想満載・ツンデレひんめーお嬢様～

言わずと知れた本シリーズのメインヒロインが、おそらくQMAという作品で全登場キャラ中現在最高の人気を誇ると目されるツンデレお嬢様・シャロンさまです。

元々このQMAという作品は、各キャラクターの簡単な公式設定以外はほとんどストーリーらしいストーリーが存在しないゲームなのですが、よくよくシリーズ開始当初のことを思い返してみても、登場人物設定を決める段階ではほとんど苦勞らしい苦勞をした記憶はなかったように思います。たぶん、僕の中でそれだけ最初からシャロンとカイルの関係性みたいなものがハッキリと思い描かれていたのでしょう。

ML#002のまえがきページにも書きましたが、元々シャロンとカイルというカップリングを妄想しはじめたきっかけは、僕の場合は2人の対照的なキャラクター設定に端を発しています。

何不自由ないお嬢様として暮らしてきたツンデレのシャロンと、過去になにがしかの不幸やら苦勞がありつつもそれを穏やかな笑顔で覆い隠して生きるカイル。シャロンを光とするなら、カイルは影で、天才肌のシャロンと努力家風のカイルは、互いの中に自分の全く知らない世界を見出しているのではないかと……と、そんなイメージを膨らませていくと、何処までも果てしなくストーリーが広がっていきます。ときどき妄想のスケールが大きくなりすぎて、エロ同人誌という限られたスペースの中で毎回どれだけのことをしようかと悩んでいる風味です（笑

向こうから毎日 予習の誘いをかけてくること自体は悪い傾向ではありませんわ



とはいえ カイルは今や私の所有物（いいえ）

◀ シリーズが進むにつれて、徐々にアホキャラ化が進行するシャロン。その妄想家ぶりは言うまでもないが、全体的な思考のポジティブさはなんだか人生を楽しく生きられるタイプの典型にも見える。

シリーズ中のエッチシーンでは、基本的に純愛系のテイストを重視している。ML#005では暴走したシャロンが逆にカイルを押し倒すような描写もあるが、それも愛ゆえの行為(?) ▶

僕はシャロンに限らず、ツンデレのキャラクターを動かしているときいつも感じていることがあって、それは「実はツンデレほど気持ちが純粹で女の子らしい女の子はいない」という点です。

一見ひねくれたことばかり言っているように感じられても本心が何処にあるか見え透いているのがツンデレキャラの可愛らしいところでありまして。

ML#005で、必死に自分がカイルと付き合っている事実を隠蔽しようとするシャロンの立ち居振る舞いなど、何かにつけ不器用で、優等生のくせして妙

に子供っぽい言動が出てしまうあたりは、特に意識して彼女を動かしている部分のひとつです。

これもまた善良そうに見えて内面に含むところのあるカイルとは真逆で、同時にカイルがシャロンに惹かれている最大の理由であると言えるでしょう。……まあ、なんだかそれも現在はややエスカレートした感があって、すっかり「成績は良いが妄想家のアホキャラ」になってしまっていますが（笑



□ カイル □ ~笑顔の裏に本心を隠す・底知れぬ秀才~

さて、本シリーズにおけるシャロンの恋人が（今更確認するまでもありませんが）カイルです。

いつも言動は裏腹ながら本音はごくわかりやすいシャロンに対して、カイルはなかなか掴みどころ



のないキャラクターです。シャロンに彼が惹かれていること自体は間違いありませんが、シャロンが彼に対して抱いているそれよりも、カイルが彼女に対して抱いている感情は複雑です。

◀ とにかく負けず嫌いなシャロン。このときは、自分の方が告白する予定だったのに先を越されてしまい、対抗意識からこんな台詞を口走ってしまう。だが、ML#004でカイルが意外にモテると判明するや、その後は意識のバクトルが変わったようだ。現在は「周囲の女子から人気のカイルが、実は自分の魅力にメロメロ」というイメージに陥っているらしい。隠すしつこい中身が魅力である

本シリーズにおけるカイルは、公式設定にある「過去の出来事（それがどういったものだったかは定かではないのですが）」を経験したことから、常に笑顔を絶やさず穏和な人物……のように振舞っているが、実は深い闇を内面に抱えた人間として考えられています。

「自分のためではなく、世の中のために賢者になることを目指している」というカイルなのですが、怒りに我を忘れるほどの事件に遭遇したこともある彼にとって、何が世の中のためなのか？ 僕のような捻くれた妄想が大好きな同人作家にとって、カイルは非常に料理するのが楽しいキャラクターです。ひょっとしたら、彼は誰もが考えるような世界平和なんて求めていないのかもしれませんが。

しかしそんなカイルにとって、シャロンは何よりもかけがえのない存在です。不幸や苦難に塗れて生きてきた彼には、シャロンはおとぎ話の姫君か、清らかな究極の芸術品のように見えているのではないのでしょうか。ML#005のラストシーンで言っていますが、カイルはたぶんシャロンのためになることであれば、どんなことでも仕出かすでしょう。シャロンの近くに、彼女の不都合になるような存在が仮にあったとしたら、それを（決してシャロンには悟られないように）排除して、翌日につこり微笑みながら「何があったのかわかりませんが、邪魔なものがなくなって良かったですね」と語りかけるような一面の持ち主です。カイルにとって、世の中における数少ない確実に正しいこととはシャロンがしあわせになることで、シャロンのためにならない物事は全て悪なのです。

そして、たぶん彼は自分自身がすでに救いようもなく内面を闇に侵されているとっていて、自分をどれほど貶めてでも、シャロンの存在を庇護したいと考えている節があります。



▲ シャロンがカイルにかなわない所以が窺い知れる会話。ホレさせているように見えても、カイルの立ち居振る舞いに骨抜きにされているのは、やっぱりシャロンの方だったりする。しかしそれもまたシャロンの愛嬌？

そうしたわけで、シャロンが想像している以上にカイルが彼女を想う気持ちは強いのですが、あまりにも愛情が深すぎて掴み切れないというのが実情でしょう。

カイルは、自分の内面に潜む深い闇を、唯一シャロンがいつか光となって照らしてくれることを期待しているのかもしれませんが。

……というわけで、いつもシャロンとカイルを描きながら僕が妄想している2人の脳内設定をページの都合が許す限り羅列してみました。もうね、エロマンガなのに何を考えながら描いてるんでしょうねこの人はね！と、自分でもツッコミを入れたくなる感じです。げふっ。というか、いったいこの2人を主人公にしたQMA本はいつまで続くのでしょうか。僕にもわかりません。あと1冊ぐらい作ったら、サクッと突然終わっちゃったりしてな（笑えない）。いずれは賢者になり、しあわせになった2人の姿を見てたい気もしますが……それは今ではない別の機会に、という感じでしょうかw



□ おまけ □

なんだかよくわからないけど唐突に穴埋めでエロいページをw 兼ねてから人知れず「ツンデレなお嬢様にニーソ（黒）で踏まれて束縛されたい」と、変態そのものの願望を呪詛の言葉のように呟き続けているワタクシなのですが、本編中のエロシーンでは何故かネームが上手にそういう方向へ運んでくれなかったりするので、それはいまだ成し得ぬ見果てぬ夢のひとつだったりします。今回も描けなかったけど、いずれこんなシーンを必ず本編で……！



1: そんなこんなであとがきです。

ま、実はコレまえがき書いた直後に続けて書いてる文章なんて、自分はけっこう変な感じなんですけどwww
とりあえずなんとかなりそうでした……

2: 突発ネタでやってみたシャロンとカイルの考察ページも、改めて読み返すと自分のキャラクターに対する愛情の所在みたいなものを確認するいい機会になって、書いた本人としては面白かったです。果てしなく自己満足的ではありませんが（笑

で、やっぱりシリーズとして通して読むと、シャロンやカイルの言動に細かいふれが感じられる箇所もあつたりするんですが、そのへんのキャラクター造詣が4冊出してみて固まってくるまでのプロセスがけっこう笑えたり。

今年に入ってからホームページで「シャロンのキャラが変わってる」とか指摘されたことがありまして、そのときはいやいやそんなことはないですよ！と反論したものの、今回よくよくチェックしてみるとたしかに微妙に違ってるw
そのへんを自らフォローする意味を含めての考察ページでもあったのです。
やー、そういう部分を含めて、ほんと同人誌作りは面白いですね。
と、なんとなくまとめっぽい雰囲気に入ってみたり（あ

3: で、折角なので今後の当サークルの予定なんぞを。

いちばん近いところでは、やはり4月のサンクリってことになるでしょうか。もう申し込みのメットも近いのですが、これからちゃんと申し込んでくるつもりです。で、ジャンルは次も『QMA』でシャロンの予定。何か急に血迷ったり、原稿落としたりしなければ（をい）、5冊目のシャロン本を出すつもりでいます。同ジャンルで5冊！ いよいよ自分にとって未知の領域です（笑
しかもそれがゲーセンのクイズゲームの同人誌とは……まだ達成されたわけじゃありませんが、人生何がきっかけでどう転ぶかつかずわかりません。ギャルゲの同人誌ばかり作っていた時期には想像もつかなかった展開です。
また、ほぼ同時に夏コミの申し込みもありまして、こちらもジャンルは男性向けながら『QMA』のシャロンをメインで申し込むことになると思いますから、まだしばらくは当サークルのシャロンとカイルの甘エロラブコメ同人誌にお付き合いますようお願い致します。

4: と、いうところで丁度誌面も尽きました。

次回の本でも皆さんにお会いできることをお祈りしつつ、今回はこのへんで失礼します。

いつも心にツンデレを！ それではまた～

『ML#006』
2007.02

□IMPRINT□

発行：【MOD】

発行者：秋芳涼太郎

印刷：ねこのしっぽ様

【MOD】PRESENTS
『QUIZ MAGIC ACADEMY』
Shalon
2007.SPRING
『Monna Lisa #006』
for adult only

